



舞 鶴

進路指導部通信

2年生 6月号 鹿児島県立国分高等学校 [令和2年6月1日発行]

進路のてびき

『未来へ向かって』 近日配付 !

昨年度同様、本校の進路の手引きである『未来へ向かって』という冊子を学年ごとに近々配付する予定です。この冊子は資料編と進路学習編の2部構成になっています。資料編では卒業生の進路状況や合格者数、3年次の実力考査と各大学の可否の相関、入試スケジュールや大学入試センター試験の概要、卒業生の合格体験記を掲載しています。また、進路学習編は、LHRやCR、SRで活用する学習内容がまとめられています。

担任の先生からも見方などの説明があると思いますので、各自で繰り返し読み、自分の進路実現に役立ててください。保護者の方も御一読いただければと思います。



2年の早い段階で進路目標を明確に!

2年生は、本格的に受験の準備を始める学年です。2年生の後半にかけ、自分の行きたい大学や学校とその志望理由を明確にしていく必要があります。目標がなければ人間は努力をしないものです。目標のない人は自然と学習活動にも身が入りません。

まずは、自分が大学や上級学校でどのような勉強をしたいのか考えてみてください。それが明確になったら、次はその勉強や研究ができる大学や上級学校がどこなのか考えていくのが一般的な方法です。身近なところでは、進路室の隣にある進路資料室に各大学や上級学校のパンフレットがありますので、それを見て自分のやりたい勉強や研究ができるか調べてみるのもよいでしょう。自分がやりたい勉強や研究がどのような大学にあるのかわからない場合は、担任の先生や進路室の先生にも相談してみてください。

【進路目標の確立 ⇒ 学習意欲の向上】

○ 進路資料室で志望校を調べてみよう!

【進路資料室見取り図】 気軽に来てください。

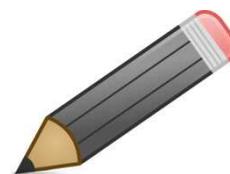
ロッカー		大学赤本	DVD用 テレビ	各大学
入試 過去問		机		DVD パンフ レット
小論文 関係				
専門学 校パン フ	専門学校 チラシ	机	パソコン プリンター	受験手 続書類

検索可能!

期末考査・7月模試に向けて

7月9日から4日間、1学期期末考査が始まります。前回の中間考査同様、推薦入試を考えている人にとっては、評定に直結する大事な試験になっていきます。2週間くらい前から試験範囲の総復習に入ってほしいものです。試験勉強のスタートが遅れると一夜漬けになってしまいます。一夜漬けだと忘れるのも早く、実力はつきません。繰り返し、繰り返しやったことしか人間は身につけませんので、早めに試験勉強に取りかかり、試験範囲を何度も復習することが大切です。

また、7月18日には2年生最初の進研模試が実施されます。この模試では志望校が4つ選べます。今の実力での可否の判定も出ますので、前述の通り、志望校をある程度明確にして臨んでください。定期考査や模試で結果を残すためには、やはり日ごろの学習が大切です。毎日の予習や授業、課題、小テストの勉強を疎かにせず、学力をつけていってください。



2020年度大学入試結果分析

大学入試センター試験 編

以下は、今年1月に実施された大学入試センター試験の概要です。これを見て、センター試験とはどのような試験なのか概略をつかんでみてください。

● 志願者・受験者

- ① 志願者は557,699人、受験者は527,072人。
(新卒高校卒業者の43.3%の人が受験しています。)
- ② 志願者数は昨年度に比べ19131人、現役志願者数は12715人となっており、その主な原因として18歳人口の減少が上げられる。

● 平均点

① 全国平均点

	平均点	前年比
7科目文系型	547点	-22点
7科目理系型	552点	-19点

② 主要科目全国平均点

教科・科目	平均点	主要科目の全国平均点を見ると、教科・科目にもよりますが、だいたい100点満点で60点くらいになるように設定されています。国立大学の合格を目指すのであれば、6割の得点率、つまり全国平均点くらいはとることが大切になってきます。自分の模試や校内実力考査を振り返ってみましょう。6割取れているのでしょうか？苦手科目は早めに克服できるように頑張ってください。
英語	116.3	
リスニング	28.7	
数Ⅰ・A	51.8	
数Ⅱ・B	49.0	
国語	119.3	
物理基礎	33.3	
化学基礎	28.2	
生物基礎	32.1	
地学基礎	27.0	
物理	60.6	
化学	54.7	
生物	57.5	
世界史B	62.9	
日本史B	65.4	
地理B	66.3	
倫理	65.3	
現代社会	57.0	

コラム

『解体新書』ができるまで

『解体新書』を翻訳した杉田玄白は若狭の国（今の福井県）の藩医の子どもとして生まれ育った。江戸時代の医療は大変お粗末なもので、外科でできるのはおできと刀傷の治療ぐらいだった。そんな時、江戸であった人体解剖の時に見た臓器の場所が、オランダ語の『ターヘル・アナトミア』という医学書といささかも違いがないことを知り、仲間2人とついにこの本の翻訳に志すことになった。しかし、杉田と仲間は当然オランダ語の知識や語学の基礎すら知らない。その最初の当惑ぶりを彼は「櫓舵なき舟の大海に乗り出せし如し」と述べている。245ページに渡る書物のオランダ語を、当時は辞書すらないのに、どのように読み解いていったのだろうか。

ちなみに杉田らの翻訳は4年かかった。その苦労は、たとえば「眉というのは、目の上に生えている毛である」という文を日が暮れるまで議論しても訳せなかったり、考えつくしてもわからない言葉はマークを付けるのだが、時には訳文がマークばかりになったりというようなものであった。今まで日本語にない「神経」「軟骨」「頭蓋骨」「膀胱」などの単語もかなり作っている。翻訳作業は想像を絶する気の遠くなるような苦労の連続であった。

しかし、1年あまりすると訳せる単語が少しずつ増え、1日に10ページくらい訳せることもあった。2・3年経過すると「サトウキビを噛みしめるように、その甘みがわかってくるようになった」という。そして、苦労の末、41歳の時、翻訳が成功し、『解体新書』が完成した。「1日も早く、世間でこの書を見られるようにしたい」。この高い志と不屈の精神がこの書を世に送り出すことになった。

勉強も同じではないだろうか。最初わかるようになるまでは大変手間がかかり苦労する。しかし、1つ山を越えると後はすらすらといくようになる。その山を不屈の精神で越せるかどうかが大事になってくるのではないだろうか。